

令和4年度山口県立厚狭高等学校（定時制課程）評価書 校長（大下 康一郎）

1 学校教育目標	
教育目標・・・本校の歴史と伝統に誇りを持ち、理想を追求するとともに、未来を切り拓く心豊かでたくましい社会に有為な人材を育成する。 1 学業に励み、真理を探究する態度の醸成 2 誠実で、自主・自律の精神の涵養 3 健全な心と体の育成 中・長期目標・・・1 各学科の特色を生かしたキャリア教育の推進 2 確かな学力の向上を目指した学習習慣の定着 3 自主・自律を目指した基本的な生活習慣の定着 4 読書力及びコミュニケーション能力の育成 5 意欲と自信を持って生活する生徒の育成	スローガン 誰かのために 何かのために ～ふるさとを愛し、より良い社会づくりに貢献する～

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）	
【学校運営】良好な学習環境を維持するために、閉課程までを見通した計画的な学校運営体制の改善が必要である。 【学習指導】基本的事項が定着し、自分の力で学習できるようになった。自ら目標を設定し、主体的な発展的学習や資格取得へと結びつけたい。 【生徒指導】正しい規範意識を養うとともに、自分自身を前向きに認めながら他者に対する思いやりの心がもてるように導いていきたい。 【進路指導】個々の適性の把握を十分に行い、社会性・公共性を伸ばすよう支援し、よりよい進路実現につなげたい。 【環境保健】徐々に改善はみられているが、生活習慣の乱れや定期健康診断後の受療率の低さが課題。自己健康管理意識を育む指導が必要である。 【特別活動】行事の企画・運営に積極的に参画するようになった。生徒数が減少する中での学校行事の運営方法を工夫する必要がある。 【学年】生活のリズムが徐々に整い、出席状況が改善されてきたが、自己向上のための努力に結び付くように導いていきたい。	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
【教育活動推進方針】 自ら考え、行動し、他者と協働する人物の育成 ～大人が育つ学校づくり～ 【チャレンジ目標】 「相手との立場・違いを考えた言動を心がけよう」	

A：優れている B：よい C：おおむねよい D：要改善

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	閉課程までを見通した質の高い教育の推進	課題や目的を共有し、各教職員が、個々の能力を生かし協働して教育活動に取り組む。	4 すべての生徒・保護者が「本校で学ぶことは楽しい」と感じている。 3 80%の生徒・保護者が「本校で学ぶことは楽しい」と感じている。 2 60%の生徒・保護者が「本校で学ぶことは楽しい」と感じている。 1 「本校で学ぶことは楽しい」と感じている生徒・保護者は60%未満である。	3	会議資料等に教育活動推進方針、チャレンジ目標を掲載し、教職員が常に目標を意識し共有して教育活動を展開できたことで、少人数を生かした取組や、個に応じたきめ組織的な支援や指導が提供できた。 【厚狭高アンケート*肯定的回答】 「厚狭高校に入学してよかった」 生徒100%/保護者100% 「学校生活に満足している」 生徒75%/保護者100%	一人ひとりに合わせた支援・指導体制が整っていて、生徒が生き生きと学校生活を送っている。引き続き閉課程まで計画的に質の高い教育の推進を期待する。	B
	資格取得に向けた組織的な学習支援	少人数を生かし、生徒一人ひとりに適した目標設定と学習指導を組織的に行う。	4 すべての生徒が目標とする検定の上位級合格を果たした。 3 80%の生徒が目標とする検定の上位級合格を果たした。 2 60%の生徒が目標とする検定の上位級合格を果たした。 1 目標とする検定の上位級合格を果たした生徒は60%未満だった。	2	希望する進路や適性に応じた目標設定を行うとともに、始業前の個別指導や、家庭学習用の課題の充実により、資格取得に向けた生徒の取組意欲が向上してきている。特に、上位の難関な級に挑戦する生徒に対し、目標達成に向けた意欲の持続を図ることが課題である。 【検定合格実績】合格生徒の割合 75%		
学習指導	生徒一人ひとりを伸ばす学習活動の実践と基本的内容の定着	生徒一人ひとりの課題を明確にし、最適な学習方法を示して、計画的かつ継続的な指導、支援を行う。	4 学校アンケートで80%の生徒が「知っていることやできることが増えた」と回答した。 3 学校アンケートで60%の生徒が「知っていることやできることが増えた」と回答した。 2 学校アンケートで40%の生徒が「知っていることやできることが増えた」と回答した。 1 学校アンケートで「知っていることやできることが増えた」回答した生徒は40%未満だった。	4	学習内容のまとめごと定着度を確認し、一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導や支援を行ったことで成績が向上し、生徒ができる楽しさを感じている。 【厚狭高アンケート】 「知っていることやできることが増えた」 生徒、保護者とも全員が「4 はい」と回答	少人数であることを生かして生徒一人ひとりに合わせた支援や指導が行われている。学習の成果を実感することで、生徒の自己肯定感を高め、自主的な学習につながるよう粘り強い取組を期待する。	A
	自ら積極的に学びに取り組む姿勢や態度の育成	生徒が自ら目標を設定して計画的に学習を進める取組を支援し、その成果を実感できるように内容や評価を工夫する。	4 学校アンケートで80%の生徒が「自主学習の習慣が身についてきた」と感じている。 3 学校アンケートで60%の生徒が「自主学習の習慣が身についてきた」と感じている。 2 学校アンケートで40%の生徒が「自主学習の習慣が身についてきた」と感じている。 1 学校アンケートで「自主学習の習慣が身についてきた」と感じている生徒は40%未満である。	2	考査や検定を目標に、生徒が教員とともに学習計画をたて、その結果を振り返る取組を充実させ、自主学習の改善を図った。自主学習の習慣化に向けて粘り強く取り組んでいきたい。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「自主学習時間が増えた」 生徒 50%/保護者 100%		
	実生活と深く結び付く思考・判断・表現力の育成	ICTを活用し、実生活に生かせる知識・技能の習得に結び付く、多角的で深い学びを伴う授業を行う。	4 授業アンケートで80%の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 3 授業アンケートで60%の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 2 授業アンケートで40%の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 1 授業アンケートで「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した生徒は40%未満だった。	4	ほとんどの授業でICTを活用するとともに、学習内容と実社会とを関連づけたことで、学びを深めることができた。 【生徒授業アンケート*肯定的回答】 「学んだ内容はこれからの生活に生かせると思う」 97%		

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校情報発信	定時制課程の広報活動の推進	年間3回以上の定時制通信の発行と、随時のHP更新により、本校の取組を地域に発信する。	4 80%の保護者が本校の教育活動推進方針や、チャレンジ目標について理解している。 3 60%の保護者が本校の教育活動推進方針や、チャレンジ目標について理解している。 2 40%の保護者が本校の教育活動推進方針や、チャレンジ目標について理解している。 1 本校の教育活動推進方針や、チャレンジ目標について理解している保護者は40%未満である。	4	定時制通信を年間3回発行し、学校周辺自治会にも配布した。HPはトピックスの更新間隔を短縮し、画像を添えるよう工夫した。情報を早く、広く配信するよう改善したことで、家庭や地域で本校の取組に対する理解が高まった。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「チャレンジ目標を知っている」保護者 100% 「取組が家庭に伝わった」保護者 100%	生徒が努力した成果を効果的に情報発信して伝わりやすい。HPでは、学校での様々な取組に加え、最新の定時制通信も読むことができるように、工夫をしてほしい。	A
	規範意識の向上と、基本的な倫理観の育成	生徒がそれぞれの個性や適性を生かして協働する取組を増やし、集団の中で他者と適切な関係をつくる力の向上を図る。	4 80%以上の生徒が学校生活や日常生活でのきまりを守れた。 3 70%以上の生徒が学校生活や日常生活でのきまりを守れた。 2 50%以上の生徒が学校生活や日常生活でのきまりを守れた。 1 学校生活や日常生活でのきまりを守れた生徒は50%未満だった。	3	学校生活の様々な場面で、生徒がチャレンジ目標を意識して活動するように指導方法を工夫したことで、集団の中で適切な人間関係をつくり、活発に対話活動ができるようになってきた。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「きまりやマナーを守った言動を心掛けている」 生徒 75%/保護者 100%	計画的な教育相談活動や、生徒情報の共有により、基本的な生活習慣の確立や、社会性の向上に向けた取組の成果があらわれ、生徒集団に良い変化が見られる。今後一層少人数になるが、生徒の役割分担等を工夫して、社会性や倫理観を育ててほしい。	A
	他者の尊重といじめの未然防止	様々な取組の中で生徒が自己の行動を振り返る機会を増やし、他者を認め思いやる気持ちを養うとともに、生徒と教職員間のコミュニケーションを一層深めて情報の収集と共有を図る。	4 個人面談や生活アンケートでいじめや人間関係に関する悩みの申し出がなかった、または解消に向かうことができた。 3 個人面談や生活アンケートでいじめや人間関係に関する悩みの申し出があり、取組を進めている。 2 個人面談や生活アンケートでいじめや人間関係に関する悩みの申し出があり、方策を検討した。 1 個人面談や生活アンケートでいじめや人間関係に関する悩みの申し出があったが、解消へ向けた方策の検討に取り組めていない。	4	担任やスクールカウンセラーによる教育相談を計画的に実施するとともに、生徒の情報を全教職員で共有して組織的に支援することで、他者を思いやる良好な生徒集団を保つことができた。 【生活アンケート】 いじめや人間関係に関する回答なし 【厚狭高アンケート】 「いじめもなく仲よく前向きに学校生活を送っている」 生徒、保護者とも全員「4 はい」と回答		
地域社会を通じた社会性の育成	地域と連携した取組を積極的に進め、地域に愛着や誇りを持ち、社会の一員として貢献しようとする態度を育てる。	4 すべての生徒が、自身の社会への関わり方や役割について、考えをもつことができた。 3 多くの生徒が、自身の社会への関わり方や役割について、考えをもつことができた。 2 自身の社会への関わり方や役割について、考えをもつ生徒が少ない。 1 社会に関わろうとする意欲や関心を示す生徒がほとんどいない。	3	少人数を生かし、地域と連携した取組を増やしたことで、「学校の一員」から「地域社会の一員」へ生徒の意識が高まり、社会への関りを深めることができた。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「地域の行事や活動に協力していきたいと思うようになった」 生徒 75%/保護者 100%			
進路指導	キャリア教育の推進	地域人材等を活用した講話やインターシップを進め、自己理解や職業理解を深めるとともに、将来自分の適性を生かして地域社会に貢献しようとする意欲を育てる。	4 学校アンケートで80%の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見つけられそうだ」と回答した。 3 学校アンケートで60%の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見つけられそうだ」と回答した。 2 学校アンケートで50%の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見つけられそうだ」と回答した。 1 学校アンケートで「自分の適性を生かせる職業が見つけられそうだ」と回答した生徒は50%未満であった。	4	学校や居住地近隣の事業所でのインターシップや、地域人材による講演等をおして、生徒が自己の適性に気付き、進路について具体的に考えるようになり、進路意識が向上した。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「適性を生かせる職業が見つけられそうだ」 生徒 100%/保護者 100%	生徒の個々の適性や希望に合わせた進路指導が行われている。地域の力を生かした取組も取り入れながら、充実したキャリア教育や進路指導を続けてほしい。	A
	適切な進路決定に向けての支援と早期の進路実現	就職サポーターと密接に連携し、きめ細かな進路情報の提供と、個別の進路指導を充実する。	4 卒業学年の生徒が、自分の適性や能力を生かせる希望の進路を実現することができた。 3 卒業学年の生徒が、自分の適性や能力を生かせる進路に進むことができた。 2 卒業学年の生徒が、進路を決定することができた。 1 卒業学年の生徒が、進路を決定することができなかった。	4	担任・進路指導担当・就職サポーター間で連携し、情報の収集や、本人・保護者との面談を行うとともに、全教職員で分担して面接指導等を行い、希望進路を実現できた。 【卒業学年進路実績】 第一希望へ進路決定		
環境保健・教育相談	自己の健康管理に対する意識の向上	自己の行動が健康に及ぼす影響について理解を深め、健康に毎日を送るために、生活習慣の向上に取り組む指導を充実する。	4 生活習慣アンケートで100%の生徒が「自己目標の達成ができた」と回答した。 3 生活習慣アンケートで80%の生徒が「自己目標の達成ができた」と回答した。 2 生活習慣アンケートで60%の生徒が「自己目標の達成ができた」と回答した。 1 生活習慣アンケートで「自己目標の達成ができた」と回答した生徒は60%未満だった。	2	基本的な生活習慣は向上してきたが、食生活や起床時刻で課題が残り、引き続き個々の生徒に合わせた指導や支援を続けていきたい。 【生活習慣アンケート】 日々の自己目標の達成ができた生徒 のべ60%	個々の生徒の抱える悩みや課題に対して適切な支援を続けてほしい。実社会において、自己の健康管理は大切なポイントであり、健康診断の意義や再受診の必要性などを理解し行動に移せるように指導を工夫してほしい。	B
	学校不適応の未然の防止	スクールカウンセラーと連携しながら生徒の心の状態を確認し、学校不適応等の早期発見および対応に努める。	4 学校アンケートで80%の生徒が「学校生活を前向きな姿勢で送ることができた」と回答した。 3 学校アンケートで60%の生徒が「学校生活を前向きな姿勢で送ることができた」と回答した。 2 学校アンケートで50%の生徒が「学校生活を前向きな姿勢で送ることができた」と回答した。 1 学校アンケートで「学校生活を前向きな姿勢で送ることができた」と回答した生徒は50%未満だった。	3	開発的な生徒指導に取り組むとともに、スクールカウンセラーによる全体講話、個人面談や、定期職員会議での生徒情報の共有等をおして、不適応等の防止を図った。高校で学び卒業することに価値感や意欲を持続できるように、生徒の多様な悩みに細かく対応できる協働体制を一層強化したい。 【厚狭高アンケート】 「いじめもなく仲よく前向きに学校生活を送っている」 生徒、保護者とも全員「4 はい」と回答 【出席状況】 のべ出席率 99%		

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特別活動	社会生活に必要なリーダーシップとフオーワーシップの育成	生徒間の対話を中心とした協働活動が充実するように、特別活動における生徒支援の方法を工夫する。	4 80%の生徒が自らの役割を見出し、主体性・協調性をもって生徒会活動に参画した。 3 60%の生徒が自らの役割を見出し、主体性・協調性をもって生徒会活動に参画した。 2 40%の生徒が主体性・協調性をもって生徒会活動に参画した。 1 主体性・協調性をもって生徒会活動に参画した生徒は40%未満だった。	3	生徒会行事だけでなく、様々な学校行事の計画・運営にもできる限り生徒が参画するようにしたことで、協働的な活動の機会が増え、主体性や協調性を伸ばすことができた。 【厚狭高アンケート肯定的回答】 「学校の諸活動に協力して意欲的に取り組んだ」 生徒75%/保護者100%	行事の準備や運営にできる限り生徒が参画することで、少人数でも主体性や協調性を伸ばすことができるように取り組んでいる。引き続き充実した取組を期待する。	B
図書・情報	読書習慣の確立	図書を活用した学習方法の工夫とともに、『学校図書便り』を発行し、月1冊以上の読書を奨励する。	4 読書活動アンケートで90%の生徒が「今後も定期的に読書したい」と回答した。 3 読書活動アンケートで80%の生徒が「今後も定期的に読書したい」と回答した。 2 読書活動アンケートで60%の生徒が「今後も定期的に読書したい」と回答した。 1 読書活動アンケートで「今後も定期的に読書したい」と回答した生徒は60%未満だった。	2	国語の学習を中心に、図書館の蔵書を活用した授業を実施したことで、読書に意欲的な生徒が増えてきた。学校での読書経験を、次の読書への興味や関心につなげることが課題であり、読書の喜びを実感できる機会を増やし、読書習慣の定着に努めたい。 【生徒読書活動アンケートの回答】 「今後も定期的に読書したい」75% 「進められれば読書をしたい」15%	学習活動や特別活動で、効果的にICTを活用している。書籍や図書館を活用した授業の充実に向け取り組むとともに、一層の工夫を行って読書習慣の確立に努めてほしい。	B
	ICT機器の活用による深い学びの実現	一人一台端末やクラウドサービスを学習活動に積極的に活用し、学習効率の向上と、生徒の主体的な学びの実現を図る。	4 授業アンケートで、80%の生徒が「ICTを用いることで学びが深まった」と回答した。 3 授業アンケートで、60%の生徒が「ICTを用いることで学びが深まった」と回答した。 2 授業アンケートで、40%の生徒が「ICTを用いることで学びが深まった」と回答した。 1 授業アンケートで、「ICTを用いることで学びが深まった」と回答した生徒は40%未満だった。	3	授業や特別活動でICTを積極的に活用し学びの質の向上に努めた。生徒自身のICTの有用性や留意点に対する意識も高まってきた。 【生徒授業アンケート肯定的回答】 「ICT機器がよく使われている」84% 「知っているやできることが増えた」97%		
2年	個に応じた進路設計と社会性の育成	自身の進路や、将来の社会生活について、主体的に考える姿勢を身に付ける取組を充実する。	4 全ての生徒が自身の進路や将来設計について具体的な計画を主体的に立てることができた。 3 多くの生徒が自身の進路や将来設計について具体的な計画を主体的に立てることができた。 2 生徒は自身の進路や将来設計について考え始めた。 1 ほとんどの生徒が自身の進路や将来設計について考えようとしなかった。	4	自身の進路について明確な目標を持ち、実現に必要なことを調べ、期日を設定しながら段階的に達成しようとしている。全員が三修制での卒業をめざして、自ら計画を修正しつつ、進路実現に向けて努力を続けている。 【進路計画状況(2年)】 進路希望を設定できた生徒 全員	すべての生徒で進路希望を設定できており、個々の生徒の目標実現に向けた支援を続けている。組織的な学習支援を継続し、三修制での卒業を実現させてほしい。	A
3年	将来の進路実現に向けた社会性、協調性の育成	将来の自分が就くべき職業の方向性を探るとともに、場に応じた言動を意識して行動する姿勢を身に付ける取組を充実する。	4 生徒は、場に応じた言動を主体的にとれるようになった。 3 生徒は、場に応じた言動がある程度とれるようになってきた。 2 生徒は、指導を受ければ、場に応じた言動をとれるようになった。 1 生徒は、場に応じた言動があまりとれるようにならなかった。	3	時と場に応じて求められる言動を意識できるようになり、自己の行動を省察する視点が向上した。自分の適性や能力を生かせる進路について考え、進路の実現に向けて努力している。社会性・協調性がより向上するよう支援を続けたい。 【厚狭高アンケート(3年)】 「きまりやマナーを守った言動を心がけている」 生徒2/保護者4	当該生徒の個性や適性に合わせた支援や指導により、更なる向上をめざし、希望進路が実現できるように取組を続けてほしい。	B
4年	地域の担い手として貢献する社会性の向上	生徒が学校生活の中でリーダーシップを発揮し、他者と協働する活動を積極的に取り入れる。	4 生徒は、他者と協働する姿勢が身につけ、積極的にリーダーシップをとることができた。 3 生徒は、進んで他者と協働し、自己の役割を果たすことができた。 2 生徒は、与えられた役割を他者と協働しながら果たすことができた。 1 生徒は、他者と協働する活動に取り組もうとしなかった。	4	進路に対する目標を明確にもち、意識を高く保って努力を続け、希望事業所の内定を得ることができた。社会人としての責任ある生活態度や職業に対する意識も高まっており、実社会での活躍が期待される。 【厚狭高アンケート(4年)】 「学校の諸活動に協力して意欲的に取り組んだ」 生徒4/保護者3	卒業生が定時制での学びを実社会で生かし、社会人として自立することを期待する。今後も地域社会の担い手として、高い意識をもつ生徒の育成をめざし、社会に貢献しようとする熱意ある生徒を送り出してほしい。	A

※ 厚狭高アンケート及び生徒授業アンケートは4件法(はい：4～いいえ：1)で実施し、4及び3を肯定的回答とした。

<b>6 学校評価総括（取組の成果と課題）</b>	
<b>【学校運営】</b>	少人数の良さを生かしながら、学習指導や学校行事を工夫するとともに、希望進路の実現に向けた支援を組織的に行う体制が強化され、生徒の学びや生活の状況に良い変化が見られる。閉課程に向けて一層の取組改善を図っていききたい。
<b>【学習指導】</b>	生徒が自ら課題意識をもって学習に取り組めるようになり、基礎学力の向上が見られる。今後はICTを活用して、少人数であっても対話や表現する学習活動を充実させ、実生活に生かせる知識を伸ばすとともに、資格取得等にもつなげていききたい。
<b>【生徒指導】</b>	各生徒会行事では生徒がチャレンジ目標を意識して計画、運営するように導いたことで、他者を認め思いやる気持ちや、規範意識を養うことができた。今後も開発的生徒指導により、自己有用感や肯定感を一層高め、何事にも積極的に行動できるよう支援したい。
<b>【進路指導】</b>	教職員と就職サポーターが密接に連携し、計画的で組織的な進路指導により、4年生の希望進路を決定することができた。今後も地域産業に対する理解を促す取組の工夫や、積極的な進路情報の収集により、よりよい進路実現につなげたい。
<b>【環境保健・教育相談】</b>	全員が健康診断を受診し、継続的な指導を行ったことで診断後の受療率も向上した。基本的な生活習慣にも改善が見られてきている。今後の粘り強く指導と支援を続け、健康で安全な生活の実現に向けて改善を図っていききたい。
<b>【特別活動】</b>	学校全体で生徒同士の対話が盛んになり、全員が行事等の企画運営に積極的に参画するようになった。今後も少人数を生かした工夫により、対話的、協働的な活動の幅を広げ生徒の主体性や総合的な実践力を伸ばしていききたい。
<b>【図書・情報】</b>	選書や書評の実際を授業で取り上げたことで、継続して書籍と親しもうとする態度が見られるようになった。読書習慣の確立に向け更なる取組を進めたい。ICTを積極的に活用したことで、少人数でありながらも対話的な学びや、探究活動の充実ができた。
<b>【各学年】</b>	各学年とも少人数の利点を生かして個別に対応した指導ができ、すべての生徒に取組の成果が見られた。今後も生徒の状況を細かく観察し、迅速で的確な対応によるきめの細かい指導や長期的な支援活動を充実させていききたい。
<b>7 次年度への改善策</b>	
<b>【学校運営】</b>	少人数を生かして生徒の個性を伸ばし能力を高める個に応じた支援を組織的に行い、生徒の人生の記憶に残る教育活動を展開する。
<b>【学習指導】</b>	ICTをより広く活用し、質の高い学びをとおして、主体的、協働的に学び続ける姿勢・能力を伸ばす指導をめざす。
<b>【生徒指導】</b>	いじめや問題行動の未然防止を進めるとともに、生徒の自己肯定感をより高められるよう支援を充実させる。
<b>【進路指導】</b>	関係機関や就職サポーター等との連携した組織的な取組を継続し、進路実現のために必要な支援の一層の充実を図る。